

# ボランティア♥通信

Vol.26

夏特別号

2018年9月30日発行

今年の夏は、多くの災害に見舞われました。被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。私達にできる事は何か、災害から学ぶ防災への意識、地域の人々との繋がり大切さなど、多くを考え、学ぶこととなりました。

また、ボランティア活動についての活動発表を行なう機会にも多く恵まれました。

## 8/1~8 飯館村交流2018 (中学校支援)

5年目となった今年度は、放射能汚染の避難解除となった飯館村内にて14名、7泊8日で活動しました。

進学という明確な目標もなく、自分の将来も見えず、勉強に対してどうしても意欲を持ってない生徒、一日中ずっと寝ている生徒に対して、上智大生は夜遅くまでミーティングを行い、ああでもない、こうでもない議論を繰り返し、学習支援に取り組みました。

先生とは違う距離感で、生徒と同じ目線に立ち、辛抱強く接していくことで、前日まで眠り込んでいた生徒が、翌日には大学生の真剣さに根負けします。ずっと無視を続けていた女子生徒が、好きなアニメのことをぼそっと話してくれます。そして次第に自分らに何の関係もない大学生が、夏休みの貴重な時間を、自分達、時には自分だけに費やして、毎日傍らに寄り添ってくれていることに気づいてくれます。そこから**真の交流**が始まりました。

以前は野球、サッカー、テニス、バスケ、吹奏楽など、一通り存在していた部活動も、今年度ははいよいよバドミントンだけとなりました。一生懸命取り組んでいた部活動がなくなって、やむなく転部を重ねた生徒が殆んどでした。日々一緒にペアやチームを組んで頑張っていた友達が様々な事情で他校へ転校し、残った生徒は、初めての競技に一人から取り組んでいます。

そんな生徒達に、ほんの夏の1週間程度ではありますが、練習相手として、また賑やかだった以前の部活動の雰囲気を感じてもらうために、大学生や引率教職員も負けじと汗を流しました。ボラビューはそんなふうにも必死に頑張る学生の活動を継続的に支援しています。



初日、教室で挨拶  
(地元TV局も取材)

学習支援 - 大学生はそれぞれ担当のクラスに分かれて寄り添いました

### 参加学生より

- 「百聞は一見に如かず」という言葉があるように、実際に現地を訪れてみると、今まで資料などを通して得た知識は何だったのだろうと思えるくらいに感じ取れるものがある。
- 今回3回目だが毎年新たな飯館の魅力をたくさん発見するので、学生や職員の皆さんにも飯館の魅力を伝えたい。
- 今ではボランティア活動に参加することが単位認定の材料になっているという高校も少なくないようですが、あくまでもボランティアする側は、相手様の状況を把握したうえで必要とされている労力や力添えになるという程度の謙虚さを持つ必要があると思いました。
- 飯館村の子供達は、決して「可哀想な子供達」ではないと伝えたい。



部活動支援-バドミントン指導 恒例行事-菅野飯館村長を囲んで



筑波大学のオリパラ競技体験企画

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)  
Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer@cl.sophia.ac.jp  
Twitter : @SophiaVolante



ボランティア・ビューロー窓口には、まだまだ多くのボランティア情報を用意しています！ お気軽に足を運んでください。

## 8/1~2・9/4~5 過疎地の活動 (南三陸)

前半11名、後半12名が今回で2年目となる南三陸での活動に参加しました。

民泊、漁業体験、里山見学を行い、南三陸の魅力を知り、地域の活性化、震災からの復興について考えを深めました。活動報告からいくつか感想をお伝えします。

- 近隣の繋がりを大切にしており、食べ物を近所の人同士、共有するのは当たり前で町内の様子には町中の人々が参加する、素晴らしい交流を知った。
- 交流人口や移住者の拡大のためには体験事業が有効だと感じた。今回のような体験事業を通し、漁業の奥の深さを初めて知った。
- 震災関連のお話では復興の先にある未来の町、理想の町の話をしてくださる方が多く感銘を受けた。

1期



2期



## 8/2~4 SOPHIA OPEN CAMPUS 2018



SOPHIA OPEN CAMPUS 2018で、ボランティア団体活動紹介のブースを設置しました。今年度は9号館アクティブ・コモンズにて開催。ボランティアぷらっとほーむの主催で来場者の方に気軽にご参加頂けるクイズ大会も実施しました。

中高生や保護者の方など、多くの方にご来場頂き、上智大学でのボランティア活動を知って頂ける場となりました。

## 出展団体

- ドン・キホーテ
- アイセック上智大学委員会
- わかたけサークル
- 「めぐこ - アジアの子どもたちの自立を支える会 -」
- TFT Sophia
- CeeK
- Sophia Volunteer Network
- 僕らの夏休みProject
- ボランティアぷらっとほーむ

## 8/21~22 高校生ボランティア・アワード2018

東京国際フォーラムホールEにて開催された「高校生ボランティア・アワード2018」で、課外活動団体「めぐこ - アジアの子どもたちの自立を支える会 -」(以下めぐこ)がステージ・ブース発表を行ないました。

歌手のさだまささんが創始した「風に立つライオン基金」が主催する同アワードは、内閣府やNHK厚生文化事業団の後援を得た、ボランティア活動の全国規模の交流会です。今年度は全国から87の高校が集まり、日頃の活動を紹介するブース発表を行ないました。



私たち「めぐこ」は、毎年夏に支援を行なうインド・フィリピンを訪問し活動しています。本年度は、フィリピンに約3週間滞在し、子どもたちとの交流や施設の方へのインタビューなどを行いました。

今回の「高校生ボランティアアワード2018」には、大学生のボランティア活動という視点から参加し次世代を担う高校生との対話を行いました。21日には帰国したばかりの代表がステージに登壇し、フィリピンでの経験などを交えながら、ボランティアのあり方などについて語りました。

11月17日(土)には四谷キャンパス10号館講堂でチャリティーコンサートを開催します。チケットの売り上げは全て子どもたちが学校へ通う奨学金として使われますので、皆様是非お越しください。

めぐこ 代表 山田蒼太さん (総合グローバル学科3年)

ボランティア・ビューロー窓口には、まだまだ多くのボランティア情報を用意しています！ お気軽に足を運んでください。

### 8/28~30 西日本豪雨災害支援ボランティア (視察)

平成30年7月豪雨災害では広島県・岡山県を中心に甚大が被害が広がりました。発災から2ヶ月が経過しようとしている町の様子を視察し、倉敷ボランティアセンターでボランティア活動を行いました。

また、岡山県立大学そらじゃ子育てカレッジ「チュッピーひろば」を訪問し、お手伝いをさせて頂きました。災害前から子育て支援の場として地域連携を続けるひろばは、避難所や被災した自宅で生活をするお子さんたちが子どもらしく過ごせる場として貴重であると感じました。



↑チュッピーひろばでお子さんたちの遊びのお手伝い



↑ボランティア活動に向かう前の様子



↑倉敷市ボランティアセンターにて。地元の方がボランティアを迎えてくれました。

### 9/2 新宿防災フェスタ @都立戸山公園・新宿スポーツセンター

9月2日(日)に開催された新宿防災フェスタ2018で総合人間科学部看護学科4年今井けいさんが、西日本豪雨と災害ボランティアについて、TOMOCACHIイニシアチブ、一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンターでの活動の経験を話しました。

——今井けいさんよりコメントをいただきました——

「すごいね」  
災害ボランティアに参加してから言われた言葉の中で、最も違和感を感じた言葉です。私は岡山県倉敷市の真備町で約3週間ボランティア活動に従事しました。被災された方々にとっても、ボランティアにとっても、このような災害を経験した事がある人は誰一人としていません。全ての人は、「この災害」の初心者です。災害ボランティアは「すごい」ものでも何でもなく、困難に対してどのように立ち向かうかを共に考える伴走者のような存在ではないでしょうか。



※TOMOCACHIイニシアチブについて

東日本大震災後の日本の復興支援から生まれ、教育、文化交流、リーダーシップなどのプログラムを通して日米の次世代のリーダーの育成を目指す公益財団法人米日カウンシル・ジャパンと東京の米国大使館が主導する官民パートナーシップです。

※一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンターについて

現在も、東京事務所と岡山県倉敷市でボランティアを募集しています。 <https://pbv.or.jp/volunteer>

### 9/11 麴町法人会交流委員会主催の地域企業と大学生のコラボレーションセッション

ホテルグランドパレスで開催された麴町法人会委員会主催の地域企業と大学生のコラボレーションセッションに課外活動団体アイセック上智大学委員会とステップアップ塾が「イノベーションを起こす可能性のある大学生の発表」をテーマにプレゼン発表をしました。

地域企業とのコラボレーションの可能性の機会となる会に出席させていただき、地域の皆様と懇親を深めさせていただきました。



### 9/14 災害救援ボランティア講座



この夏は西日本を中心とした各地で豪雨による被害が発生しました。これまでに全国から20万人以上のボランティアが活動していますが、発災から2ヶ月が経った現在も、ボランティアが必要とされています。

これから活動を予定している学生などを対象に、事前の準備や活動中の安全管理、被災された方との接し方などを学ぶ『災害救援ボランティア講座』を開催しました。講師の宮崎賢哉さん(災害救援ボランティア推進委員会主任/東京社会福祉士会災害時支援協力員)から、具体的な備えや災害ボランティアセンターの仕組み、事例等についてお話を聞くことで、様々な状況について想定することができました。また、ボランティアに関わることにより、被災された方の「孤立」を防ぐことが重要であるということも心に刻みました。

### 災害ボランティア活動前に確認する「3つのポイント」

- ①どんな活動をするか [手段/ツール]
- ②いつ活動するか [タイミング]
- ③活動に必要な情報は何か [データ/記録]

(講義演習ハンドアウトより) ©宮崎賢哉氏



### 9/18~20 西日本豪雨災害支援ボランティア (実施)

倉敷市ボランティアセンターでのボランティアに参加しました。夏期休暇中の緊急募集の呼びかけに応じてくれた10名の学生が下記の活動をしました。倉敷市ボランティアセンターでは、ボランティアの受入を継続しています。参加したいという学生はぜひ学生センター内ボランティア・ビューローにお越しください。



ボランティアセンターにて。ボランティアセンターまでは新倉敷の駅から無料バスで移動します。



ボランティアセンター内には地元の高校生の習字のスローガンが掲げられていました。



サテライトセンター(ボランティアセンターからより活動場所に近い集合場所)。ここで活動についての説明を受け、用具をお借ります。



倉敷美観地区見学

豪雨発生から2ヶ月が経った倉敷市で行なった活動は、  
・浸水した家屋の土壁を剥がし、土嚢袋に詰める作業。土壁の中にある竹の除去も行なった。(砂埃がひどかったため、マスクとゴーグル、帽子、手袋、長靴は必須です)  
・お庭の片付け。ご主人に残すものとそうでないものをお聞きして作業した。

# ボランティア♥通信

Vol.26

夏特別号

2018年9月30日発行

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)  
Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer@cl.sophia.ac.jp  
Twitter : @SophiaVolante



ボランティア・ビューロー窓口には、まだまだ多くのボランティア情報を用意しています！ お気軽に足を運んでください。

## 8/23~25 鎮守の森のプロジェクト植樹祭

ソフィア祭実行委員会 (以下 ソ美) では、長年エコ活動の一環として、上智大学短期大学部の秦野キャンパス周辺の植樹活動に関わってきました。今年でこの活動が一旦終了となったため、新たな植樹活動として、ソフィア会を通じて本学卒の元首相である細川護熙氏が理事長を務める公益財団法人「鎮守の森のプロジェクト」の紹介を受け、岩手県山田町で行なわれた、津波被害軽減を目的とした防潮林の植樹活動に参加しました。

今回の活動は夜行バスを使って1泊3日の行程で、35名のソ美学生が参加しました。早朝に到着後、午前中から1日かけて苗木の仕分けや翌日の植樹祭の準備を行い、夜には関係者の方々から、植林に関わる様々なお話を伺いました。植樹祭には細川氏を含む約300人が参加し、上部で地中深くまで根を張るタブノキやケヤキなど25種類3,000本の苗木を植えました。



植樹活動を行なった植樹地は震災により被害が大きかった地域でもあり、携わった学生一同は初めて被災地を訪れる人が多く、動揺している人もいました。また、今回の植樹祭には地域の方々も参加されており、震災後のリアルな想いを伺うこともできました。

東北における植林活動は私たち委員会にとって初めてのことで、今後も活動を継続していく上で意義のある機会になりました。約230名が集う委員会組織として、ソフィア祭を運営するだけでなく、このようなボランティア活動に積極的に取り組むことが目指すべき方向性であるとも感じました。

来年以降もこの東北植林活動を継続して行なう予定です。今後初めて活動に参加しようと考えている学生にも、ソ美を通じてPRしていければと思います。

ソフィア祭実行委員会代表 東海 雅樹さん (情報理工学科3年)



## 8/27~31・9/10~14 ソフィアボランティアネットワーク 熊本復興支援活動

課外活動団体ソフィアボランティアネットワークにはボラきゅうという熊本地震の復興支援を行なうチームがあります。この夏は2期にわたり、総勢20名が仮設住宅でのお茶会や、益城町にあるお宅の引越しのお手伝いをさせていただきました。詳しい活動内容は、10月15日~19日まで四谷キャンパスで開催される「防災WEEK」で2号館エントランスにて展示をします。ぜひご覧ください。

アクティブ・コモンズで、Kumamoto Earthquake Experience Project (KEEP) による熊本地震の際の留学生の記録などの展示もいたします。10月15日の昼休みにはKEEPによるプレゼンテーションも行いますのでぜひお越しください。

4/17~20に開催した熊本地震写真展でおこなった募金は、熊本城の復興・復元に向けた「復興城主」制度(熊本市)に寄附させていただきました。ソフィアボランティアネットワークのメンバーが熊本城に立ち寄り、城主名が写しだされるスクリーンを撮影してきてくれました。



## 秋学期より、交通費補助を平成30年豪雨災害復興支援として 広島県・岡山県に地域拡大します。

詳しくは、Loyola掲示板をご覧ください。東北や九州についても引き続き補助を継続しています。活動についての質問など気軽にボランティア・ビューロー (学生センター⑧窓口) にお問い合わせください。

	①東北復興支援ボランティア		②熊本地震・九州豪雨ボランティア
活動場所	岩手県・宮城県・福島県	活動場所	熊本県・大分県・福岡県 ※注①
往復交通費	上限15,000円	往復交通費	上限35,000円
補助回数	年度6 回まで	補助回数	年度3 回まで ※注②

<b>NEW!</b>	③平成30年7月豪雨災害ボランティア
活動場所	岡山県・広島県
往復交通費	上限28,000円 (岡山) 上限29,000円 (広島)
補助回数	年度3 回まで ※注②

※注① 九州3県の交通費補助については、原則として、熊本県・大分県・福岡県内一羽田 (または成田) の航空券とに限定します。それ以外の場合は、予め窓口で確認してください。  
※注② 熊本地震・九州豪雨、および平成30年7月豪雨災害ボランティアの補助回数は、すべてを合わせて年度3回までです。

- 初めて復興支援ボランティアに参加する学生は、ボランティア・ビューローが開催する「事前研修」への参加が必須です。
- 復興支援ボランティアに参加するためには、「保証人の同意を得ていること」、「天災付きのボランティア保険への加入」が必須です。

## 【予告】防災WEEKが10月15日~19日に開催されます

10.15(月)~19(金) 防災WEEK

備えるって、どうしたらいい?

- Kumamoto Earthquake Experience Project 交流会** 15日(月) @9号館 アクティブ・コモンズ
- VR車** 16日(火) 実際に目の前で災害が起きていようという体験ができます。その体験から自分が災害時に何をすべきかを考えてみてください! @メンスト
- 起震車** 17日(水) 9月北海路でも大きな地震がありました。そのとき、どうしたらいいか、その中でどう身を守るのか...大地震に備えましょう! @メンスト
- 煙ハウス** 18日(木) 火事が起きた時どのくらい逃げ遅れる可能性があるのか、煙がどのくらいかかります。 @メンスト
- ローリングストック料理体験室** 19日(金) 非常食を自分で作ってませんか? 災害時、ずつと用いものを食べ続けるのが大変...そんな時、役に立つかもしれない! @11号館 SSIC

主催: Sophia Volunteer Network  
共催: 上智大学ボランティア・ビューロー  
協力: Kumamoto Earthquake Experience Project (KEEP)

全企画無料 一部企画には参加費あり

今年で4年目となる防災WEEKは、10月15日(月)~19日(金)に開催されます。各日、昼休みに様々なイベントが企画されています。参加は全て無料です。ぜひご参加ください。

10/15(月) 熊本大学留学時に熊本地震を経験し、立ち上げたプロジェクトKEEP (Kumamoto Earthquake Experience Project)によるプレゼンテーション

10/16(火) VRにより災害シミュレーション体験

10/17(水) 起震車体験

10/18(木) 煙ハウス体験

10/19(金) ローリングストック料理体験教室 (さんまの蒲焼缶を使って海苔巻き作りです)